

こどもの病気対策法①①

―夜間のこどもの頭部打撲―

大分大学客員教授 是松聖悟

今年度、子どものいるご家庭に配布してきた、夜間のこどもの病気対策フローチャートの改訂をしています。今回は「夜間のこどもの頭部打撲」です。

小さい子どもが高いところから落ちたりして頭をうった場合、あわてると思います。もちろん、落ちる可能性がないか、危険なものがないかなど、常に気を付けてみておいていただきたいと思いますが、それでも転落してしまつたとき、どうしたらよいでしょうか？

大人ならすぐに頭部CTでもして脳内の出血がないかみたいところですが、子どもは「心配だから」との理由でCT検査をすることはありません。また、本人がケロッとしているときに、緊急処置が必要な脳内の出血がある可能性は高くありません。また、被爆や、おとなしくできない場合にかける麻酔のリスクも、小児科医は考慮して検査するかどうか決めていきます。フローチャートに記載して

いるとおり「2回以上吐いた」「意識がない」「けいれんした」などがあれば、脳内に何か起きています可能性がありますので、救急車を呼んでください。1つもなければ次に、「頭を痛がる」「骨がずれている」「傷からの出血が止まらない」「5cm以上のたんこぶができる」「3m以上の高さから落ちた」「早く動く物体とぶつかった」などがないか確認してください。1つでもあれば、こども救急電話相談#8000に問い合わせ、指示に従ってください。

それらがなければ、また、それらの症状がでてこなければ、自宅で観察して構いません。心配な場合は翌朝に受診しましょう。打撲の症状は頭を打ってから2日は生じる可能性がありますがあるので、2日間だけ安静にさせておいてください。ただし、このフローチャートはあくまで目安です。心配事があれば、こども救急電話相談#8000に問い合わせてください。

夜間のこどもの頭部打撲 フローチャート

